

まちづくりの目標を共有しよう

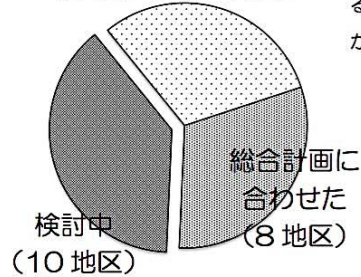
キャッチフレーズは、まちづくり行動計画の内容を凝縮させ、これからの理想のまちの姿やまちづくりの方向を短い言葉で指し示す地区のみんなの合い言葉です。そのなかには、それぞれの地区で大切にしていきたいことが表されています。



各地区に聞きました。
まちづくり行動計画のキャッチフレーズは…

新たに作っている
(8地区) 調整中を含む

各地区のキャッチフレーズを並べてみると、使われている言葉や内容などで、いくつかのタイプに分かれました。



理想像型

夢 融和と連帯の住民が主役の三世の夢が叶えられる優しいまち 天間 (天間)

子ども (仮) 安全・安心で、住み心地よく 希望にあふれ、子供たちが健やかに成長する生涯学習と健康づくりのまち 富士駅南地区 (富士駅南)

人のつながり

誰もが集い、ふれあい、心豊かに生き生きと暮らすまち おおぶち

大淵地区



大淵地区まちづくり協議会 会長 小林忠幸さん

大淵地区まちづくり協議会会長の小林忠幸さんは、「大淵地区はまとまりがあり、住民が主体的にまちづくり活動をしていることが自慢です。」と話します。

富士山麓の不法投棄に悩まされていたことから平成18年に始まった「クリーン作戦」は9年間で参加者が2倍になり、ゴミの量は3分の1に減りました。この活動を契機として、大淵地区のシンボルであるみつばつつじの「3万本植樹計画」にも取り組んでいます。今年度のクリーン作戦

は11月29日(日)に1,280人が参加して行われる予定です。

また、5月に行われる「おおぶちお茶まつり～写真コンテスト」の表彰式を、地区の最も大きな行事である7月の「ふれあいまつり」に行うなど、地区の資源を生かし、さまざまな行事をつなげてより多くの住民や団体が関わられるような工夫をしています。



写真コンテスト撮影会

自然と人

自然を愛し、こころ豊かで、人にやさしく安心して暮らせるふるさと須津 (須津)

みどり豊かで人と人の輪が広がるまち 神戸地区 (神戸)

人と人のふれあいのまち 緑豊かなまち 松野地区 (松野)

美しく、豊かな自然に囲まれながら 便利で安心なふれあいのあるまち 丘地区 (丘)

住む

安全で安心できる、住んでいてよかったと思えるまち 青葉台地区 (青葉台)

住みたい、住み続けたいと誰もが思うまち 富士駅北地区 (富士駅北)

元気な明るい安心安全な住みよいまちづくり (広見)

快適な生活環境で、人がつどい安心して住めるまち 吉原 (吉原)

行動宣言

みんなでつろう 住みたい・訪れてみたい 魅力あるまち 元吉原 (元吉原)

いつも安全、みんなの安心 全員参加で 造って・もって 続ける地区 富士見台地区 (富士見台)

子どもから高齢者まで誰もが心豊かで笑顔あふれるまちづくりを推進する 富士川地区 (富士川)

「将来に渡って住み続けたいまち」であり続けるために、心一つにして取り組みます。(鷹岡)

スローガン型

具体的な行動

あいさつのまち 田子浦
きれいなまち 田子浦
各種団体の連携強化 (田子浦)

活動活性化の秘訣として、組織体制をすっきりさせているため、情報伝達がスムーズであること、何か行事を行う時は、前と同じではなく、前よりもよくなる工夫を積み重ねていることを強調されています。



写真コンテスト表彰式



大淵地区ふれあいまつり

小林さんは、まちづくり協議会会長として「つなげていかないと丸くならない」と実感し、まちづくり協議会の目的そのものを、日頃から実践されています。

このような大淵地区の特色をより多くの住民のみなさんと共有し、これからも生かしていこうという意気込みをこのキャッチフレーズに込めました。

地区の誰もがキャッチフレーズを言えるようになったら、日頃の活動も関わり方、受け止め方が変わってくるかもしれません。

